

鎌原用水

浅間山の活動と江戸時代の暮らしを結び付ける

■■■人々の暮らし■■■

江戸時代、鎌原村は信州街道の宿場でした。鎌原用水は鎌原宿の中央を貫流し、下の田畑まで流れていました。水源は鬼押し出し溶岩の末端部の湧水で、水源地から鎌原宿まで約8kmの用水路が引かれており、以前は道路の中央を通っていましたが、昭和33年に設備が整った水道となり、現在は道路の脇を流れています。この用水は浅間山の火山活動と、その影響を受けつつこの地で暮らしてきた人々の生活を示す貴重な史跡です。



当時の鎌原用水



現在の鎌原用水